



(参考仮訳)

プレス・リリース No.12/152  
即時解禁  
2012年4月27日

国際通貨基金 (IMF)  
米国・ワシントン DC

## IMF アジア太平洋地域経済見通し、 アジアの経済成長は力強さを増すも更なるリバランスが不可欠と指摘

国際通貨基金 (IMF) は本日、最新のアジア太平洋地域経済見通し (REO) をマレーシアの首都クアラルンプールで発表した。この中で IMF は、2012年のアジアは、前年第4四半期の経済の減速を経て成長の加速が予想されるものの、安定したインフレなき成長を支えるために政策調整を行うという、難しい課題に直面しているとの見解を表明した。

世界経済の成長がぜい弱な一方、アジア地域では、低失業率や融資の力強い伸びに示されるように、国内需要が引き続き旺盛となっている。一方、多くの国でインフレ期待が高まり、2012年はこれまでのところ、新興アジア諸国に向けた資本流入が回復している。

IMF は 2012 年のアジア地域の成長率を前年とほぼ同水準の年率 6%、2013 年は約 6.5%とみている。しかし、域内各国間のばらつきは依然大きい。中国の 8.25%、インドの 7%近い成長にけん引され、アジアの新興諸国の成長率は引き続き世界でも最も高くなることが予想される一方、アジア工業諸国の成長率は 2.2%にとどまるとみられる。

また、同見通しの中で IMF は、欧州の問題の深刻化は明らかにアジアへのリスクとなっていると警告している。とりわけ先進諸国への輸出の大幅な減少や、海外からの資本流入が逆転すれば、地域の経済活動に深刻な打撃を与えるとみている。さらに、価格が高騰し、変動幅も拡大しているエネルギーの問題が経済のリスク要因となるとともに、インフレ圧力と、食料やエネルギー向け補助金による財政圧力の間でバランスをどうとるかの難しい問題も引き起こしていると指摘した。

一方で、上振れリスクも存在している。マクロ経済政策は引き続きおおむね緩和的であることから、2012年を通し世界経済や金融の状況が今後一段と安定すれば、ア

ジア地域の成長が加速し、景気過熱圧力が再燃する可能性もあろう。2012年のインフレ率は前年からやや緩んで平均で3.5%程度と予測している。しかし、この数字は国際商品価格が正常化したことを一部反映した結果であり、幾つかの国・地域では需要圧力が継続すれば、実際のインフレ率が、公表しているか否かにかかわらずインフレの目標圏を上回る可能性が大きい。

これまでアジア各国は、そのより力強い経済と政策のファンダメンタルズにより、ユーロ危機からの金融市場への負の波及効果から守られてきた。とはいえIMFは、内生的成長の源泉の強化が、アジアが域外のショックから地域経済を守る最善の方法だと認識している。その意味で、経済の再調整は引き続き大半のアジア諸国の最優先の政策課題となっている。

中国および多くのASEAN諸国で貿易黒字が縮小したことは、主要な黒字国側に世界の需要が移りつつあることへの期待を高めた。中国による持続的なリバランス（再調整）は、成長の基軸を投資中心から消費中心へ移行できるかの成否にかかっている。インドでは投資環境の改善と貿易の促進が、同国で現在進行する人口動態の変化から生じる利点を最大限に生かす道である。一方多くのASEAN諸国では、国内需要を強化するには、インフラのボトルネックの解消や公共サービスを充実させることなどにより、民間投資の環境を改善することにある。